

## 英国 Gem-A Conference 2016 に出席して

JGS 理事長 伊藤 彰

11月5日(土)～8日(火)開催のGem-A Conference、9日(水)開催のチューター会議及びATC主催者会議に出席して参りました。

Conferenceは昨年と同じThe Royal Institute of British Architectsで開催、New CEO Alan Hart氏がMCで、同じくNew President Maggie Campbell-Pedersen女史(Organic Gems誌編集・発行者:Organic Gemsとは動植物期限の宝石で琥珀・象牙・真珠・貝殻・サンゴ等)の開会挨拶で始まりました。

講演は、世界的に鉱山開発を行っているGemfields CEO Ian Harebottle氏より『宝飾の将来を確実にする色とデザインの重要な役割』とのタイトルで始まり、2日目最後の講演者、昨年風邪でキャンセルとなった米国Pala International CEO Bill Larson氏の親の代から続く鉱山開発(San Diego)の歴史と博物館級の採掘物について聴講しました。

今年一番心に留まったトピックスはJohn Dyer氏の『研磨における科学とアート』で、氏の作品は永年、ツーソン・ショウで見えて来ていますが、原石のオリエンテーション・カット・プリフォーム・研磨の工程と使用研磨機及び材料等を詳細にわたり開示していただいた事は何よりでした。研磨技術によって素材が活かされることを再確認出来ました。

次には、スミソニアン博物館のDr. Michael Wiseによるノースカロライナ産ヒデナイトの紹介。昨今、なかなかお目に掛れない非照射のヒデナイト(クロム着色)は今後の商材として面白いと思います。

5日(土)のディナーレセプションは、CEO Alan Hart氏の隣に席を設定され、講演者2名Jim Clanin氏とPat Daly女史を交えて8人がテーブルを囲み和やかに打ち解けて歓談する事ができました。Hart氏が今年も8日の国立自然歴史博物館見学会の案内役をされるとの事から参加要請があり、今年も参加することにしました。

Graduation Ceremonyですが、長年行われてきた歴史あるGold Smith Hallが出席卒業生の増加により手狭となったことから昨年より開場が変更され、今年Lincoln's Inn Fieldsに在るThe Royal College of Surgeonsにて開催されました。日本からは女性ばかり5名(クラフト学院)が参加、内藤アンバサダー主催のODL卒業生2名(女性)も出席され、内5名が着物と華やかでした。

世界中から集まるATCチューター会議、主催者会議に向け、クラフト学院大場学院長、伊藤・若月両講師との事前会議を10月7日、11月2日と持ち、現状での問題点・解決法・要望等を検討し会議に臨みました。

9日午前中に CEO Alan Hart 氏と個別会談。上記について討議しました。引き続き午後からの ATC 主催者会議にても現場担当者に質問しました。生徒に直接送られるメール及び On Line アサインメントの内容につき情報開示を要請すると、香港・台湾の ATC からも同様の要望が寄せられ、翻訳にて教育を行っている国の問題点が共通していることを窺わせ、他 TAC との連携は今後考えていくべきではないかと感じました。

Conference Work Shop として過去 3 回参加し、理事会にも報告してきていますカラー・コミュニケーション・システム（カラー・クラリティ・カットによる色石評価法）を普及している GemWorld International Inc., President Richard Drucker 氏と会期中に会談しました。来年から世界的な普及活動に入る予定であるとお聞きし、日本への紹介・ワークショップの開催を含め、JGS として普及していける品質判定システムとして検討していきたい旨、お話ししました。



卒業式開始前の会場の様子



AI/ai